新関西国際空港株式会社

News Release
2022 年 4 月 28 日

第 1 回定期的モニタリングの結果について

2016 年 4 月より、関西国際空港及び大阪国際空港の両空港は、公共施設等運営権方式（以下、「コンセッション」という。）を導入し、これまでの当社の運営を引き継ぎ、関西エアポート株式会社による運営を開始しております。

また、両空港の適切な運営の確保を図るため、関西エアポート株式会社は、空港運営事業について毎年点検等（セルフモニタリング）を行っているところでありますが、今般、当社は、その毎年のセルフモニタリングを踏まえ、「第 1 回定期的モニタリング」として、コンセッション開始後 5 年間の同社の空港運営事業について、設置管理者としてのモニタリングを実施するとともに、空港利用者・関係者からの意見聴取も踏まえて、その結果をとりまとめましたので、お知らせいたします。

[第 1 回定期的モニタリング結果等概要]

- 関西エアポート株式会社は、民間の資金・ノウハウの活用というコンセッションの目的及び趣旨を踏まえて、航空輸送需要の拡大に向けた新たな取組等を進めるとともに、安全・安心な空港運営等公共インフラとしての役割を適切に果たしている。（別紙）
- また、この 5 年間で、両空港を取り巻く環境は大きく変化したが、関西エアポート株式会社は、その変化にも着実に対応してきている。
  ① 2018 年の台風 21 号により、関西国際空港は大きな被害を受けたが、関西エアポート株式会社は、BCP（事業継続計画）を新しくするとともに、災害発生時の関係者の迅速な情報交換・意思決定のための JCMG（総合対策本部）の設置や護岸のかさ上げ、電源設備の地上化など、同様の大きな災害に十分に耐えうるソフト・ハードの体制を整えてきている。
  ② インバウンドによる急速な航空需要の増大に対しては、保安検査場へのスマートレーンの導入等ファストトラベルの推進を図るほか、抜本的な利用者増対策として、ターミナル I の大規模改修工事を進めており、2025 年大阪・関西万博時の大幅な利用者増に対応できる体制を作りつつある。
  ③ 新型コロナウイルス感染症対策としては、検疫等国の関係機関に協力して、入国者の検査体制確保に万全を期すとともに、空港内に PCR 検査センターを設け、出国者等に対する対応も行っている。

- 当社としては、今後、一般的な空港運営事業の点検等にあわせ、以下のような直近の課題についてのモニタリングにも力を入れていくこととしており、毎年のモニタリングにおいて点検を重ねることで、進捗状況を確実に把握し、課題解決につなげていくこととしている。

  ＜直近の課題＞

  - 新型コロナウイルス感染症の影響（経営・空港運営事業）
  - コロナからの航空需要回復過程の受け入れ体制の確保
  - 2025 年大阪・関西万博に向けた取組
  - カーボンニュートラルに向けた取組
  - 安全・安心の確保（危機管理対応の徹底、施設の適切な維持管理）
  - 貨物事業拡大に向けた取組
  - 空港アクセス改善に向けた取組
  - 空港利用者・関係者との緊密な連携・意思疎通

（お問い合わせ先）
新関西国際空港株式会社　総務部管理グループ
TEL:072-455-4064

５年間の主な取組等

航空輸送需要の拡大

◆需要拡大に向けたターミナルＩの大規模改修工事
◆Fast Travelの推進
（自動チェックイン機増設、保安検査場待ち時間表示、スマートレーン導入等）
◆新たなインセンティブスキームの導入
（国際線着陸料の引き下げ、割引制度の新設等）
◆ウォークスルー型商業エリアの整備、空港初・関西初の店舗誘致
◆医薬品航空輸送品質認証の取得　　等

公共インフラとしての役割

[安全安心・危機管理]
◆危機管理体制の強化
（JCMG（総合対策本部）の設置、特別災害隊の編成）
◆護岸のかさ上げ、電源設備の地上化
◆新BCPの作成、地震津波BCPの改定
◆新型コロナウイルス感染症への対応
（検疫に協力した入国者検査体制の確立、ワクチン輸送体制の構築）　　等

[環境対策・地域共生]
◆環境対策・助成事業、騒音対策の実施　　等

参考指標

◆ 航空旅客数	（関空）	2016年度：2,572万人	⇒ 2019年度：**2,877万人**	**【＋305万人】**
	（伊丹）	2016年度：1,510万人	⇒ 2019年度：**1,577万人**	**【＋67万人】**
◆ 国際線就航会社数		2016年夏ダイヤ：66社	⇒ 2019年夏ダイヤ：**73社**	**【＋7社】**
		2016年冬ダイヤ：66社	⇒ 2019年冬ダイヤ：**74社**	**【＋8社】**
◆ 国際線就航便数		2016年夏ダイヤ：1,241便（365便）	⇒ 2019年夏ダイヤ：**1,570便（540便）**	**【＋329便（＋175便）】**
		2016年冬ダイヤ：1,248便（392便）	⇒ 2019年冬ダイヤ：**1,553便（459便）**	**【＋305便（＋67便）】**
◆ 国際線就航路線数		2016年夏ダイヤ：87路線［25路線］	⇒ 2019年夏ダイヤ：**93路線［29路線］**	**【＋6路線［＋4路線］】**
		2016年冬ダイヤ：86路線［26路線］	⇒ 2019年冬ダイヤ：**93路線［30路線］**	**【＋7路線［＋4路線］】**
◆ 国内線就航路線数	（関空）	2016年夏ダイヤ：15路線［10路線］	⇒ 2019年夏ダイヤ：**17路線［15路線］**	**【＋2路線［＋5路線］】**
	（関空）	2016年冬ダイヤ：14路線［10路線］	⇒ 2019年冬ダイヤ：**17路線［15路線］**	**【＋3路線［＋5路線］】**
◆ 医薬品輸出価額		2016年：87,886百万円	⇒ 2020年：**167,226百万円**	**【＋90%】**
◆ 食料品輸出価額		2016年：14,172百万円	⇒ 2020年：**32,572百万円**	**【＋130%】**

※国際線就航会社数：定期旅客便又は貨物便として就航した会社数　※国際線就航便数：定期旅客便又は貨物便として就航した便数で、（　）はうちLCCの便数を示す
※国際線・国内線就航路線数：定期旅客便又は貨物便として就航した路線数で、［　］はLCCの計画時点における路線数を示す（１都市の複数空港に就航した場合はその就航空港分を全て含む）
※旅客数・就航関係数は、2020年が新型コロナウイルス感染症の影響により需要・収益が大きく落ち込んだため、2019年の数値を採用